

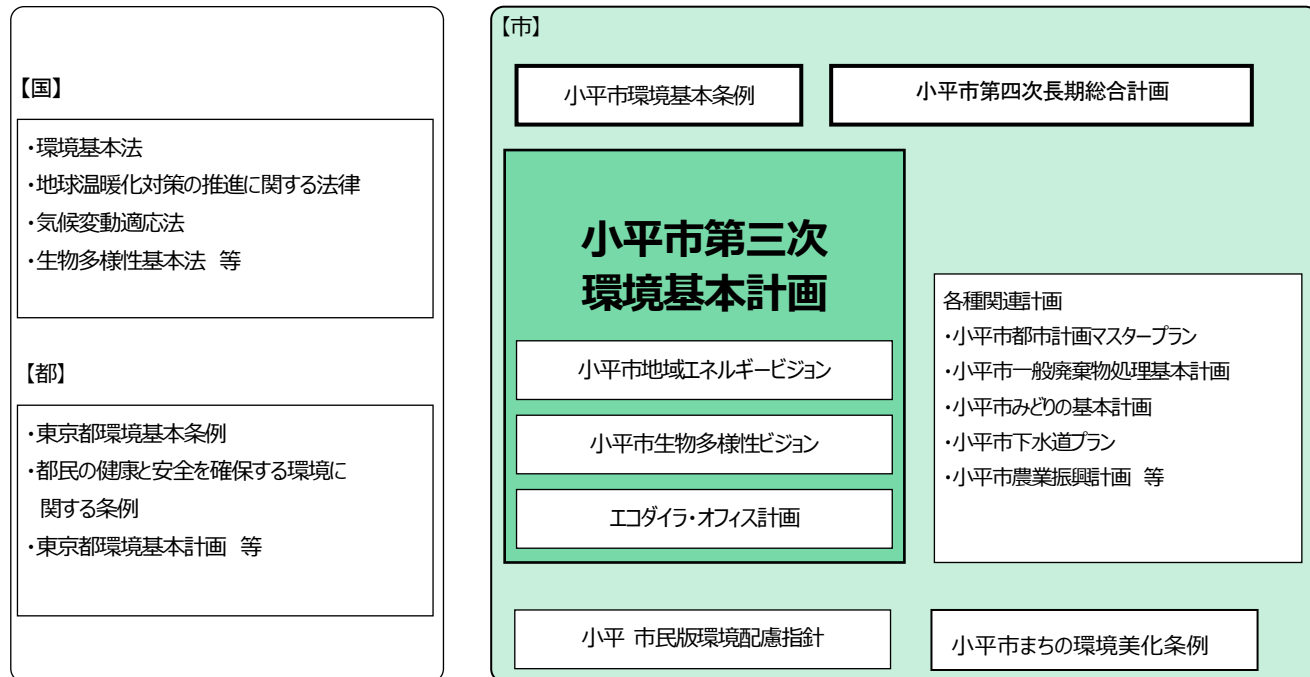
1 計画の概要

(1) 計画の位置づけ

小平市第三次環境基本計画は、小平市環境基本条例第7条に基づき、環境に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画です。

本市の最上位計画である小平市第四次長期総合計画「つながり、共に創るまち こだいら」の将来像の実現を環境面から支え、各分野と連携し、総合的・横断的に推進するための指針を示すものです。

また、本計画は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく、地方公共団体実行計画(区域施策編)である「小平市地域エネルギービジョン」、地方公共団体実行計画(事務事業編)である「エコダイラ・オフィス計画」、及び生物多様性基本法に基づく生物多様性地域戦略「小平市生物多様性ビジョン」を包含しています。



(2) 計画期間

計画期間は、令和3(2021)年度から令和12(2030)年度までの10年間です。

なお、上記計画期間中においても、環境や社会情勢の変化等により、必要に応じて見直し、部分的変更、付加等を行うこととします。

(3) 施策の体系

目指す環境像の実現を図るため、計画対象とする5つの分野（「地球環境」「資源循環」「自然環境」「生活環境」「共通基盤」）ごとに基本方針を定め、基本方針に基づく施策を展開しています。

【施策の体系】

目指す環境像【循環・調和・協働の「わ」を大切に みんなで気持ちよく暮らせるまち こだいら】		
基本方針	施策	取組数
I 地球温暖化・エネルギー対策の推進 [小平市地域エネルギービジョン]	省エネルギーの推進	9
	エネルギーの有効活用	10
	気候変動への適応	7
II 循環型社会の形成	廃棄物の発生抑制(リデュース)	7
	資源の循環利用(リユース・リサイクル)	8
	適正処理の維持・向上	3
III 水と緑と生きものとの共生 [小平市生物多様性ビジョン]	生物多様性の理解と配慮行動	5
	みどりと生きものの保全・創出	10
	みどりと生きものの活用	7
IV 快適な生活環境の確保	大気・水・土壌環境等の監視と保全	6
	身近な住環境問題への対応	6
	まちの環境美化の向上	6
	環境にやさしい交通手段への転換	6
V 学びと協働の推進	環境教育・学習の充実	4
	多様な主体との連携・協働 普及啓発による環境意識の向上	6 4

(4) 重点プロジェクト

目指す環境像を実現するため、環境基本計画の基本方針と施策に基づいた取組の実効性を高めるため、5つの基本方針の中でも優先的に進める必要がある取組を抽出し、重点プロジェクトとして設定しています。

重点プロジェクト1 減らそう！CO₂

基本方針I「地球温暖化・エネルギー対策の推進」を通じ、脱炭素社会の構築を加速させます。

重点プロジェクト2 創ろう！水と緑、生きものとともにある暮らし

基本方針III「水と緑と生きものとの共生」を通じ、豊かな水と緑、生きものとともにある暮らしを将来の世代へと引き継ぐことを目指します。

重点プロジェクト3 高めよう！環境意識と行動意欲

基本方針V「学びと協働の推進」を通じ、環境のことを“みんなが知る”ための情報発信を強化します。

2 令和4年度末実施状況の概要

(1) 小平市第三次環境基本計画（令和4年度末実績）

基本方針1 「地球温暖化・エネルギー対策の推進」（小平市地域エネルギービジョン）	地球環境				
<p>【施策の展開】</p> <p>2050年における脱炭素社会の構築を見据え、二酸化炭素排出量実質ゼロに向けて意欲的に取り組むため、令和4(2022)年2月に小平市ゼロカーボンシティ宣言を表明しました。地球温暖化防止のための「緩和策」として、更なる省エネルギー化とエネルギーの有効活用を推進するとともに、気候変動の影響を回避・軽減するための「適応策」にも取り組むなど、取組を拡大します。</p>					
<p>【成果指標】</p> <p>長期的には二酸化炭素排出量実質ゼロを見据え、令和12(2030)年度に基準年度[平成25(2013)年度]比で二酸化炭素排出量50%削減する</p>					
単位：1,000t-CO ₂					
数値目標	基準値(2013)	前年度(2019)	現状値(2020)	目標値(2030)	目標値(2050)
二酸化炭素排出量(エネルギー起源)	623	495 (△20.5%)	482 (△22.6%)	312 (△50.0%)	0 (△100%)
(出典：オール東京 62 市区町村共同事業資料)					
<p>施策1 省エネルギーの推進</p> <p>【主な取組】</p> <p>■市民版環境配慮指針の普及拡大 重点</p> <p>小学校への出前授業にて配付を行うとともに、市民公募のプロジェクトメンバーにより内容の見直しを2年間かけて行い、令和5(2023)年3月に新しい市民版環境配慮指針「こいだいらゼロカーボン」が完成しお披露目イベントを開催しました。</p> <p>■環境家計簿アプリの活用</p> <p>環境学習講座等で周知を行うとともに、省エネキャンペーンや環境イベントでの環境クイズ等、アプリを活用したイベントを実施することで利用者の拡大を図りました。</p> <p>■公共施設におけるLED照明導入率 重点</p> <p>児童館、学童クラブ、公立保育園、公園等においてLED照明器具に更新したほか、市庁舎における7階と地下1階の冷暖房設備・LED化改修工事に向けた設計を行いました。</p> <p>■ZEV（電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車） 重点</p> <p>庁用車の買い替えの際には、補助金等の情報を注視し、電気自動車の購入を総合的に判断し進めています。令和4(2022)年度購入台数0台、庁用車103台中ZEV導入12台(11.7%)</p>					
数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)	目標値(2030)		
環境家計簿の利用件数	2,795件	2,930件	5,000件※		
公共施設におけるLED照明導入率	53.3%	54.8%	80%		
ZEV（電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車）の導入	11.7% (12台/103台)	11.7% (12台/103台)	40台		
※環境家計簿参加者が入力した月数の合計					

■エネルギー消費量の縮減

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、省エネ性能に優れた家電への買い換えに要する経費の一部を助成することで、家庭におけるエネルギー消費量の縮減を図りました。

現状値の令和2(2020)年度におけるエネルギー消費量は5,737TJであり、前年度の令和元(2020)年度から微減に留まり、基準年度である平成25(2013)年度比16.3%の削減となりました。

数値目標	前年度(2019)	現状値(2020)	目標値(2030)
エネルギー消費量	5,747 TJ (2013年度比-16%)	5,737 TJ (2013年度比-16%)	4,392 TJ (2013年度比-36%)

施策2 エネルギーの有効活用

【主な取組】

■公共施設における再生可能エネルギーの最大限の活用 **重点**

公共施設への太陽光発電設備については、新学校給食センターに10kwの太陽光発電設備を設置しました。令和4(2022)年度末の設置施設は累計40施設、総発電出力487.8kWであり、また、令和4(2022)年度の総発電電力量は504,357.7kWhで、195,439kg-CO₂の二酸化炭素排出量の削減を図りました。

■省エネ・蓄エネ機器等設置費用の助成 **重点**

太陽光発電設備、家庭用燃料電池(エネファーム)のほか、新たに蓄電池、断熱窓の設置者に対し、設置費用の一部を助成しました。

新エネルギー機器設置費用の助成実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
太陽光発電システム	56件	53件	46件	54件
蓄電池	—	—	30件	39件
断熱窓	—	—	5件	12件
エネファーム	145件	135件	94件	81件

■再エネの導入実績の拡大

太陽光発電設備、家庭用燃料電池(エネファーム)のほか、新たに蓄電池、断熱窓の設置者に対し、設置費用の一部を助成することで、家庭・業務部門における導入拡大に向けた働きかけを行いました。

■EV活用インフラの整備促進

今後、電気自動車の割合が増えていくことを踏まえ、公共施設においては、急速充電設備の設置に関する検証を行うとともに、一般の使用者が気軽に使用できるように、スーパー飲食店の駐車場等に複数設置してもらうよう、事業者に働きかけを行いました。

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)	目標値(2030)
公共施設での太陽光発電設備の設置施設数	39施設	40施設	45施設
創エネ・蓄エネ機器等設置費用の助成件数	2,651件	2,837件	5,000件※
再エネの導入実績	14 GWh (50 TJ)	15 GWh (54 TJ)	130 GWh (468 TJ)
EVスタンドの施設数(公共・民間)	11か所	12か所	20か所

※平成19(2007)年度からの太陽光発電システム・燃料電池の助成件数の累計

施策3 気候変動への適応

【主な取組】

■未整備地区における雨水管きょ整備

小平市第二次下水道プランの前期計画期間において、浸水リスクを有する地区への整備として7地区の整備を予定しており、令和4(2022)年度は2地区(大沼町4丁目、花小金井5丁目)において工事を実施し、新たに1地区(花小金井5丁目)が対策済みとなりました。これにより、対策済み累計地区は2地区となりました。

■雨水貯留・浸透施設の設置促進

雨水流出抑制、地下水のかん養、湧水等自然環境の保全及び回復等に資するために、雨水浸透ます設置の工事費の助成を市で行っており、令和4(2022)年度は2基の雨水浸透ますの助成を行ったほか、小平市第二次下水道プランの前期計画期間においては、浸水リスクを有する地区への整備として7地区の整備を今後予定しています。

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)	目標値(2025) ^{※1}
未整備地区における雨水管きょ整備地区数	1地区	2地区 ^{※2}	7地区
雨水貯留・浸透施設設置地区数	0地区	0地区 ^{※3}	7地区

※1 「小平市第二次下水道プラン」における前期計画期間の目標値

※2 令和4(2022)年度は2地区において工事を実施し、うち、新たに1地区が対策済み

※3 令和4(2022)年度は工事の実績は無し(7地区において設計を継続実施)

基本方針2 「循環型社会の形成」

資源循環

【施策の展開】

循環型社会の形成に向けて、ごみはもちろん資源物も含めた総量の抑制に取り組み、総量を抑制してもなお発生するものに対しては、資源として循環利用を徹底して環境負荷を低減します。それでも残る廃棄物については、適正な処理に努めます。

【成果指標】

ごみの発生抑制、資源の再使用・再生利用を推進された循環型社会の形成を目指し、**市民一人1日あたりごみ・資源物総量を毎年度削減する**

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)	目標値(毎年度)
市民一人1日あたりごみ・資源物総量の抑制	674.2 g/人日 [※] (前年度比△2.1%)	654.4 g/人日 (前年度比△2.9%)	前年度比減

※「小平市一般廃棄物処理基本計画」における排出物原単位

施策1 廃棄物の発生抑制(リデュース)

【主な取組】

■燃やすごみに含まれる雑がみの削減の推進

「資源とごみの出し方」及び、市ホームページ等で排出方法の周知を行った。また、リサイクルセンター内の紙袋の回収と無料配布、YouTube及び「資源とごみの出し方」、市ホームページでの雑紙回収袋の作成方法の周知等を行うことで市民への啓発を行いました。

数値目標	2019年度	2021年度	目標値(2030)
燃やすごみに含まれる可燃性資源 ^{※1} の抑制	12.8%	11.1% ^{※2}	10%

※1 雑がみ、雑誌など

※2 ごみ組成分析調査については、2年に1度実施している

施策2 資源の循環利用(リユース・リサイクル)

【主な取組】

■資源物行政回収量の抑制

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)	目標値(毎年度)
資源物行政回収量の抑制 [※]	11,542 t (前年度比△3.3%)	11,250 t (前年度比△2.5%)	前年度比減

※生産・販売だけでなく廃棄以降の段階まで関わる責任(拡大生産者責任)の考え方を踏まえ、事業者の店頭回収等を推進することにより、廃棄物の発生抑制やリサイクルを促進し、さらに行政回収量を抑制する

基本方針3 「水と緑と生きものとの共生」(小平市生物多様性ビジョン)

自然環境

【施策の展開】

自然から得られる生態系サービスによって、我々の生活が支えられていることの理解を促進し、みどりの保全や創出、生物多様性の保全と持続可能な利用に努めます。また、緑地や水辺の連続性を意識し、エコロジカル・ネットワークの形成を図ります。

【成果指標】

小平グリーンロード、幹線道路沿いのみどり、用水路のみどりを中心とした水と緑のつながりを大切に、公園や樹林地など個性豊かな小平のみどりを次世代に引き継いでいきます。

数値目標	計画策定時(2017) ^{※1}	現状値(2022)	目標値(2030)
みどり率	29.6%	- ^{※2}	29.6% ^{※3}

※1「小平市第三次みどりの基本計画」策定時は平成29(2017)年に調査を実施

※2 中間報告時(令和8(2026)年度)に調査予定

※3「小平市第三次みどりの基本計画」における目標値

施策1 生物多様性の理解と配慮行動

【主な取組】

■自然観察会・講演会等のイベントの開催 重点

自然観察会「レンジャーと行く!小平の生きもの調査隊!」、環境学習講座「落ち葉の下のミクロの世界をのぞいてみよう」の講座等を開催するとともに、国際生物多様性の日に合わせて、市役所1階にて身近なビオトープ関連の展示や生物多様性の普及啓発に伴う展示や市制施行60周年事業として生き物調査隊の参加者(子ども達)が描いた生きもののイラストや集めた写真を使用して展示会を開催しました。

■生きもの調査の実施

自然観察会「レンジャーと行く!小平の生きもの調査隊!」を開催し、生き物の生息状況を報告書としてまとめ、市内の小中学校や市民へ配布するとともに、市ホームページで公表しました。

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)	目標値(毎年度)
自然観察会・講演会・展示会等の開催回数	5回	6回	5回

施策2 みどりと生きものの保全・創出

【主な取組】

■小平グリーンロードのみどりの保全 **重点**

緑道の清掃と除草、植生管理を行ったほか、今後の玉川上水のナラ枯れの対策に向けて、東京都と情報交換を行いました。

■公共施設の緑化の推進 **重点**

公共施設に植栽や花壇の設置、緑のカーテンを設置することで、緑化の推進を図りました。

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)	目標値(2030)
一人あたり公園・緑化面積	2.78 m ²	2.77 m ²	2.92 m ²
農地面積	173 ha	168 ha	165 ha (2027) ※

※「小平市農業復興計画」における目標値（減少面積の抑制）

施策3 みどりと生きものの活用

【主な取組】

■小平グリーンロードのみどりの活用 **重点**

一般社団法人こだいら観光まちづくり協会において、小平グリーンロードを歩くまち巡りツアーや小平駅からあじさい公園までの桜のライトアップを行いました。

■緑のカーテンの推進 **重点**

緑のカーテンの普及啓発のため、緑のカーテン講習会&苗配布を開催したほか、環境イベントにおいて緑のカーテン写真の展示を行いました。
ゴーヤとアサガオの種を公共施設に配布し、55施設で緑のカーテンを設置し、夏の省エネに取り組みました。

■地産地消の推進（地場産農産物の販売、学校給食等への供給）

小学校給食地場農産物利用促進事業の実施により、各公立小学校の地場産農産物の購入実績に応じて補助金を交付し利用促進を図るとともに、東京むさし農業協同組合が実施する地場産農産物の地産地消を推進するための活動を支援しました。

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)	目標値(2030)
公共施設における緑のカーテン設置数	60 施設	55 施設	75 施設
学校給食における地場産農産物の納入率	小学校 33.0% 中学校 6.2% ^{※2}	小学校 34.6% 中学校 10.1% ^{※2}	各 30% ^{※1}

※1「小平市農業復興計画」における目標値

※2 給食センター建て替え工事中の実績を含む

基本方針4 「快適な生活環境の確保」

生活環境

【施策の展開】

市民生活や事業活動に直接影響を及ぼす大気・水・土壌環境等の監視と保全に努めるとともに、地域からの相談への対応や市民一人ひとりのマナー・モラルの向上に努め、良好な住環境の維持や環境美化の推進に取り組めます。また、地域特性に応じた交通環境の整備や公共交通機関の利用を促進し、環境にやさしい交通手段への転換を推進します。

【成果指標】

数値目標	前回(2019) ^{※1}	現状値(2021)	目標値(2030)
小平市の環境に対する満足度	69.7%	68.5% ^{※2}	70% ^{※3}

※1 小平市環境に関する市民アンケート調査報告書（2020年3月発行）の問11「小平市の環境に対して、満足していますか。」の質問に対する回答「満足 18.3%」「多少満足 51.4%」の合計（直近の個別のアンケート調査結果）

※2 第20回小平市政に関する世論調査（2021年5月実施）の問4「あなたのお住まいの周辺の環境について、どの程度満足していますか。」の項目「(16)水や大気的美しさ」、「(17)まちの静かさ(騒音・振動が少ない)」及び「(18)まちの清潔さ」に対する回答のうち、「満足」及び「やや満足」の合計の平均

※3 目標年度時点で直近の世論調査または個別のアンケート調査結果

施策1 大気・水・土壌環境等の監視と保全

【主な取組】

■大気・水質・土壌等の環境調査

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)	目標値(2030)
二酸化窒素濃度の環境基準達成地点の割合	100%	100% [※]	100%

※45か所で年2回、延べ90か所で実施

施策2 身近な住環境問題への対応

【主な取組】

■地域猫活動の推進

市内に生息する飼い主のいない猫に受けさせる不妊・去勢手術にかかる費用の一部を助成している。

【飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費補助事業】

令和4(2022)年度 手術費助成 11件、サクラねこチケット 232件

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)	目標値(2030)
飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費補助の件数（TNR活動の活用含む）	1,010件 [※]	1,253件 [※]	1,000件 [※]

※制度開始（平成28(2016)年10月）からの累計

施策3 まちの環境美化の向上

【主な取組】

■環境美化活動の推進

年間を通じた、自治会、高齢者クラブ、青少年対策地区委員会、企業等の清掃活動に対し、ごみ袋等を交付し、自主的な清掃活動を支援しました。

【清掃活動参加状況】

令和4(2022)年度：164団体、8,578人

■イエローチョーク作戦の普及

放置された犬のフンに黄色のチョークでマーキングすることで警告を促す取組として、イエローチョーク作戦を実施しました。

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)	目標値(2030)
環境美化活動（クリーン作戦）の参加人数または団体数	4,938人 130団体	8,578人 164団体	12,000人 または200団体
イエローチョークの配布本数	151本	287本	300本（毎年度）

施策4 環境にやさしい交通手段への転換

【主な取組】

■地域公共交通の利用促進

自家用車より環境負荷の小さい公共交通の利用促進を図るため、「小平市公共交通マップ」を作成しました。また、地域住民や事業者で組織する「にじバス協議会」や「コミュニティタクシーを考える会」を通じて、地域商店会等と連携・協力し、より一層の利用者増に努めています。

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)	目標値(2030)
コミュニティバスの利用者数	181,576人	197,639人	255,500人
コミュニティタクシーの利用者数(大沼ルート)	19,898人	21,556人	各ルート共通目標 26,730人
コミュニティタクシーの利用者数(栄町ルート)	17,781人	21,123人	
コミュニティタクシーの利用者数(鈴木町ルート)	15,577人	17,221人	

基本方針5 「学びと協働の推進」

共通基盤

【施策の展開】

市が目指す環境像の実現のためには、地球環境、資源循環、自然環境、生活環境の4分野における取組とともに、これらの取組を下支えする市民一人ひとりの確かな知識と意欲、信頼関係に基づく協働・連携が不可欠です。多様化・複雑化する環境問題の解決に向けて、あらゆる世代や多様な主体との連携・協働を推進します。

【成果指標】

様々な主体が発信する環境情報に触れることで、環境を守り・育むための行動へと繋がる社会を実現します。

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)	目標値(2030)
環境学習・イベント等への参加人数	6,138人	28,877人	19,000人

施策1 環境教育・学習の充実

【主な取組】

■学校での環境教育・学習の充実 **重点**

市立小・中学校全校では、学習指導要領に基づき、社会科、理科、総合的な学習の時間等の授業において、児童・生徒が環境への理解を深めるよう指導の充実を図り、各校の実態に応じてSDGsの理解の推進、3Rの取組や節電などに関する学習を行っています。

また、環境問題やゴミ、ビオトープに関する環境出前授業、下水道館での団体見学の受入れを実施しました。

■多様な環境学習講座等の開催 **重点**

市民、事業者に対して、幅広く環境問題について学んでいただき、環境に配慮した行動に踏み出すきっかけづくりを目指し、多彩な講座等を実施しました。

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)	目標値(2030)
出前授業の実施回数	10回	16回	12回
環境講座の実施回数	54回	61回	50回

施策2 多様な主体との連携・協働

【主な取組】

■公園・道路等ボランティア制度の普及

公園・道路ボランティアにより公園、歩道、駅前広場、用水等で花壇の管理や樹木の剪定などの緑化活動や清掃活動を行いました。

【ボランティア登録数】

令和4(2022)年度：公園 31団体、個人116人 道路 49団体、個人367人

■環境配慮事業者連絡会の充実

環境配慮事業者連絡会を開催し、国、都、市の省エネ、創エネ等の補助金の情報提供および東京電力パワーグリッド株式会社より東京電力グループのカーボンニュートラルの取組について情報提供いただき、意見交換を行いました。

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)	目標値(2030)
公園等アダプト制度登録団体数	10団体	12団体	20団体※
環境配慮事業者連絡会参加事業者数	17事業者	17事業者	30事業者

※「小平市第三次みどりの基本計画」における目標値

施策3 普及啓発による環境意識の向上

【主な取組】

■市報・ホームページでの環境情報の充実 **重点**

緑のカーテン講習会、小平市まちな環境美化条例の説明、雑がみ回収袋作成動画等、積極的に動画を配信しました。

■SNS等を駆使した環境情報の発信 **重点**

環境学習講座等のイベントや季節に応じた環境の取組、みどりの相談所、鷹の台公園いどばたかいぎ、水と緑ウォッチングウォーク、公園活用促進、公園アダプト団体募集等の情報について、メルマガ、環境家計簿からのお知らせ、Twitter、LINE等で発信することで、環境情報の充実を図りました。また、ごみ分別アプリを活用して、ごみに関する様々な情報やイベントを発信しました。

(2) 市が実施する事業者としての取組【エコダイラ・オフィス計画】(令和4年度末実績)

① 施設ごとの二酸化炭素削減状況

市の施設における二酸化炭素排出量の令和4(2022)年度実績は7,814 t-CO₂で、基準年度である平成25(2013)年度と比較して20.1%減少しました。

単位：t-CO₂

施設名称等	2013年度 (基準年度)	2022年度 実績	削減量 (2022-2013)	削減率 (2022-2013)	2030年度 (最終目標)	
庁舎	763.6	545.4	△ 218	△ 28.6%	基準年度比 -51%	
地域センター	461.6	308.0	△ 154	△ 33.3%		
小平元気村おがわ東	117.1	97.1	△ 20	△ 17.1%		
市民文化会館	1,089.8	996.7	△ 93	△ 8.5%		
保育園	381.7	367.4	△ 14	△ 3.7%		
健康福祉事務センター	60.5	57.3	△ 3	△ 5.4%		
福社会館	300.8	194.3	△ 106	△ 35.4%		
健康センター	134.1	87.9	△ 46	△ 34.5%		
リサイクルセンター	46.2	118.4	72	156.3%		
ふれあい下水道館	79.5	43.6	△ 36	△ 45.1%		
小学校	2,433.6	2,257.2	△ 176	△ 7.2%		
中学校	1,002.0	771.0	△ 231	△ 23.1%		
学校給食センター	432.0	197.9	△ 234	△ 54.2%		
市民総合体育館	593.8	446.9	△ 147	△ 24.7%		
公民館	306.4	239.5	△ 67	△ 21.8%		
図書館	671.3	516.4	△ 155	△ 23.1%		
その他施設※	818.0	518.4	△ 300	△ 36.6%		
庁用車	ガソリン	74.7	44.8	△ 30		△ 40.0%
	軽油	10.6	5.9	△ 5		△ 44.6%
合計	9,777	7,814	△ 1,963	△ 20.1%		

※リサイクルセンター…平成30(2018)年度で旧施設が廃止され、令和元(2019)年度から新施設が稼働

※学校給食センター…令和4(2022)年度完成に建て替えが完了し、令和5(2023)年度より稼働

※その他施設

消防団分団、小平ふるさと村、平櫛田中彫刻美術館、鈴木遺跡資料館、市民プール、テニスコート、グラウンド、子どもキャンプ場、学童クラブ、ほのぼの館、さわやか館、たいよう福祉センター(障害者福祉センター)、あおぞら福祉センター、公園、建設事業所、公衆トイレ、自転車駐車場等

② 二酸化炭素排出量の推移

令和3(2021)年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により施設を一部休止しておりましたが、令和4(2022)年度はコロナ禍における事業の再開や学校給食センターの稼働により、エネルギー使用量が増加したことから、令和4(2022)年度は令和3(2021)年度と比較すると、二酸化炭素排出量が309.1 t-CO₂(4.1%)の増となりました。

	二酸化炭素排出量 (t-CO ₂)	対基準年度比 増減率	対前年度比 増減率
2013年度(基準年度)	9,777.2	—	—
2030年度(最終目標)	5,886.3	—	—
2021年度	7,504.9	△ 23.2%	△ 3.4%
2022年度	7,814.0	△ 20.1%	4.1%

③取組ごとの実施状況

■項目1 省エネルギーの推進

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)
水道使用量	280,699 m ³	302,532 m ³
電気使用量	12,177,796 kwh	12,853,307 kwh
ガス使用量(都市ガス) (LPガス)	879,807 m ³ 12,668 m ³	971,012 m ³ 12,314 m ³
公共施設のLED化 (令和12(2030)年度までに80%)	53.3%	54.8%

■項目2 エネルギーの有効活用

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)
太陽光発電システム設置済施設	39 施設	40 施設

■項目4 環境に配慮した自動車の利用

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)
庁用車における二酸化炭素排出量(ガソリン車) (軽油)	43,648 kg-CO ₂ 7,854 kg-CO ₂	44,791 kg-CO ₂ 5,876 kg-CO ₂
電気自動車等の導入	12台/103台	12台/103台

■項目5 廃棄物の減量

数値目標	前年度(2021)	現状値(2022)
廃棄物排出量 (毎年度前年度比減)	1,076,841 kg (対前年度比51.6%増)	660,340 kg (対前年度比38.7%減)
用紙購入量 (令和12(2030)年までに1,200万枚以下)	12,862,260 枚	12,737,693 枚